ZOOM・ずーむ @スタッフ

Vol.22

豊島中央病院
管理部長・看護部長

嶋貫久美子さん

12月1日より豊島中央病院は偕行会グループに参加し、新たな歩みをはじめました。看護師歴25年、管理部長でもある嶋貫さんは、より質の高い病院をめざし11月中から活動を始めています。スタッフと会議を重ねる日が続いています。

「駒込共立クリニックと兼務で、忙しい日々を送っていますが、やりがいがあります。私はまずどこにムダがあるかを調べました。それはなるべく患者様のベッドサイドに付く時間を増やすため、皆様とより深いコミュニケーションを取りたいからです」。

嶋貫さんは日本に100名程度しかいない「透析療法指導看護師」の資格を持っています。スタッフの指導はもとより、患者様ひとりひとりの看護や医療相談に関わる高いカウンセリング能力を必要とされる資格です。このほかに糖尿病療養指導士、臨床工学技士やケア・マネージャーの資格もお持ちです。

「お話をじっくり聴かせていただく中で、患者様一人ひとりがどのように自己実現したいのかがわかってきます。オーダーメイドの自己管理をサポートしていくのです。私の仕事は患者様が自分らしい生活を送られるためのお手伝いです。新しいスタッフも増えましたから、みんなで患者様を心身共に支えていきたいですね」。

嶋貫さんの今後の目標は、一刻も早く患者様の顔と名前を一致させることです。「序々にではありますが、患者様から相談を持ちかけられることもようやく増えてきました」。

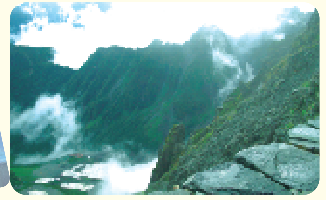
コミュニケーションをよくするためのスタッフ会議

ちょっとひと言

山登りや散歩で元気な毎日

趣味は山登り。山の美しさは嶋貫さんの心と身体を癒します。愛犬「ノア」ちゃんとの散歩も、明日へのエネルギーの充填に役立っているようです。

愛犬「ノア」ちゃん



穂高山荘からの壮大な眺め

ZOOM・ずーむ @スタッフ

Vol.23

長野県

駒ヶ根共立クリニック
看護師

岩元由香里さん

医療の世界に文化や芸術を取り入れる療法が盛んです。駒ヶ根共立クリニックでも笑いやアートを取り入れて患者様の癒しに役立てようというユニークな試みが始まっています。

「透析の患者様は、ほとんどの場合一生透析を続けなくてはなりません。透析を続ける中で少しでも楽しく笑って過ごしてもらいたいとの思いから、笑いや癒しに関心を持つようになりました。その中で出会ったのが川柳でした」と、話すのは、中心になって企画を進める一人の岩元由香里さん。

一昨年夏にスタッフを中心に川柳同好会を発足させました。昨年の6月からは患者さんからも川柳を募集し作品をロビーに展示しています。年末には優秀作品を表彰しました。『義理多く　帰らぬ諭吉　一葉も』が優秀作品に輝きました。

「昨年腎友会で、私が『笑いの効用について』お話しさせていただき、そこに腎友会と共催で地元出身の落語家を招いて寄席を開き、みなさんに大いに笑ってもらいました。笑いは自然治癒力を高め、ユーモアは会話の潤滑油、痛みやストレスを減らす効果もあり、家族や仲間とのコミュニケーションにも役立ちます」。

川柳のほかに、フットセラピーやフラワーアレンジメントの活動、また写真や水彩画、トールペイントなど、患者様・スタッフ個々の活動も取り入れ始めています。このような活動をすることでお互いに癒されたらとの願いを込めて、『みんなで癒会（ゆかい）』と名付けました。「2008年は癒会をベースに、笑いと癒しの活動を軌道にのせたい」。

上：新装成った駒ヶ根共立クリニック。
下：笑いの絶えないクリニックにしたいと話す看護師さんたち

ちょっとひと言

みんなで癒会（ゆかい）♪

癒会のメンバーは、クリニックに関わるすべての方、この機関紙を読まれている方々もメンバーさんになります。是非皆さんも一句よせてください。

「患者様同士の会話が増えました」（中村有里さん）「みんなで笑っていきましょう」（宮澤弥生さん）と川柳掲示版の前で話す、右から岩元さん、中村さん、宮澤さん。